



～第2回法人合同研修報告（子ども・子そだて新制度と保育）～

今年度スタートした法人合同研修の第2回目は、4月からスタートする「子ども・子育て新制度」の概要と、どのような制度化にあっても私たちが見失ってはいけないものについて、「全国の保育士の応援団長です」と自己紹介して下さった、明星大学教授の垣内国光先生にお話を伺いました。

“子どもたちに豊かな保育を保障するために～子ども・子育て新制度と私たちの保育～”

講師 垣内国光先生（明星大学人文学部 福祉実践学科教授）

11月8日に開催されたこの研修に先立ち、垣内先生からは「7割は、私たちの保育の素晴らしさを、3割は新制度のことをお話しいたします。」と事前コメントをいただきました。児童福祉政策、保育問題をご専門とされ、保育士の専門性と労働環境との関わりなどについての著書も多い垣内先生のお話は、日常の保育の根底に触れる部分も多くあり、また、お人柄を感じさせるフランクな口調と豊富な実例を挙げてくださったことと相まって、職員たちの心がどんどんお話しに集中していきのを感じられました。



来年4月の実施まで「あと半年」を切っても、まだまだ明確な全体像が見えてこない新制度に不安は残りますが、「保育」の仕事で大切なことは何か、見失ってはいけないもの、譲れないものは何か、それぞれがこの仕事に就いたときの思いを振り返り、自負心や意欲を高める機会となればと願っています。



職員の感想から（★は島田、★は駅前、★は北六丁目、★は北嶺町）

- ★初めての参加でした。時折ジョークを交えながらの講義にあっという間に引き込まれ、とても有意義な時間を過ごすことができました。日本は欧米の真似をしながら発展してきたのに、なぜ教育の分野はこんなにも遅れているのか不思議でなりません。きっと日本のお役人は自分の利益のことしか考えていないのだなと感じました。現場の声が届かないのは非常に納得いきませんが、そんな中でも子どもたちの保育を保障していきたいと思いました。（保育士）
- ★今回の研修で、私たちの仕事は素晴らしい仕事なのだと改めて知ることができました。それなのに社会的には低く見られたり、周りに比べると低賃金だったり色々思うことはありますが、私たちが必要としてくれている子どもたちのために、できることを最大限努力していきたいと思います。保育も点数化され、“その時間をこなせばいい”というサービス業になっていき、そのような考え方の保育園と、私たちのような園と一緒にされてしまうのは非常に悔しいですが、たとえ制度が変わっても、今まで通り、また今まで以上に努力し、“あの園は違う!”“あの園に入れたい!”と思ってもらえるような園になるよう、園の一員として頑張りたいです。（保育士）
- ★正直話の内容が分からず、資料に目を通すことで学ぶことがあった。資料に記載ある言葉の「子どもたちの問題行動に出会うときほど、私たちの人間的な力量を問われることはない」という言葉にまさにそうだと感じた。そして自分の保育に対しても、まだまだ未熟だと考えさせられた。そして、新制度のことを知れば知るほどこわくなる。（保育士）
- ★新制度に変わることでメリットを感じる事ができず、不安が残りました。自分はいつまでも保育士という仕事にやりがいを持って、働き続けたいと思いました。（保育士）
- ★「伝えたくてしょうがない思いを育てる」という言葉が印象的だった。口頭詩の採集の話もあったが、子どもの成長を保護者と喜び合いながら進めていけるのは理想だと思った。保育士の仕事がもう少し世の中に認められるといいなと、新制度の話聞く度に強く感じる。（保育士）
- ★とても良い話を聞けたが、もうすこし新システムの内容を具体的に聞きたかったです。想像していた研修とは少し違ったように思います。自分自身での学習も必要ですが、保護者に聞かれたときに説明できるのか…不安です。（保育士）
- ★給食日よりなどにも口頭詩を載せると楽しくなると感じた。（しかし、すぐにメモを取らないと忘れてしまう…）新制度が変わっていくが、変化に体、頭がついていけるか不安に思う。労働条件がこれ以上悪くならないことを願います。（調理）
- ★現代の子育てにおいて、保育園が担う役割はとても重要だと改めて感じました。そのためには保育現場で働く職員の労働条件や職場環境を整えていかなければ、よりよい保育を提供していくことは難しいと思いました。しかし、他力だけに頼らず。保育に対する気持を持続させていけるよう努力したいと思います。「口頭詩」は、園児だけでなくリラックスタイムに活用できそうです。（看護師）
- ★誇りある専門性の高い仕事だと思いますが、新制度に移行するにあたり、無資格の方や子育て支援員が増え、保育士という職業が軽視されたり、“保育士”という資格者だけが重荷を背負うことになってしまうのではないかと心配です。講演の中の、“ゆらぐ自分を認める”という垣内先生のお言葉で、仕事に対する自己嫌悪や不安を少し取り除けそうです。福祉にしっかりと従事した人たちが考えた新制度なので、利用者や保育する側での考え方の食い違いが起きないと信じたいと思います。（管理・指導職）
- ★配慮児が多い北六ですが、この子どもたちのおかげで私たち職員が成長しているということが分かりました。子どもたちに感謝です。「遊び」とは保育士の質も問われますが、大事なことだと改めて感じました。サービス化を懸念します。最後の「職場での人間関係」へのストレスがいちばんだと聞いて驚きました。（管理・指導職）
- ★口頭詩のお話がありました。日頃子どもの言葉に心から耳を傾ける余裕のない自分を感じます。子どもとのふれあいをもっともっと大切にしなければと反省しました。利潤や生産性のない保育士という職業は、給与が低いものだと思います。十数年前からいわれたいとおりに保育は介護と同様の道をたどり始めました。働き続ける支えには島田福祉会の保育理念があります。（管理・指導職）
- ★最も印象に残っているのは、“人間を見る目の育ちに依りてしか子どもは見えない”ということ。自分の見目を磨き、自分の保育を振り返りながら後輩たちにも助言できるようにしたいと改めて思いました。このように人と人とのつながりが大切な“保育”が新制度によって変わろうとしていることが不安ですが、まもなく施行されます。私たちの専門性が子どもたちに十分に行き届くような制度であるべきだと感じます。政府の発表に右往左往され、何もできない自分の立場が歯がゆいです。（管理・指導職）